

[分類]	普及技術
[成果名]	ブロッコリーのコナガ防除にアニキ乳剤が有効である
[要約]	ブロッコリーのコナガ防除にアニキ乳剤の 1,000 倍液を散布する。
[担当]	野菜花き試験場環境部
[部会]	病虫部会

1 背景・ねらい

ブロッコリーの重要害虫であるコナガに効果が期待できる薬剤を選定するとともに、ブロッコリーに対する薬害の有無を検討した結果、有効性が確認されたため普及技術とした。

2 成果の内容・特徴

(1) ブロッコリーのコナガ防除にアニキ乳剤の 1,000 倍液を散布する。

農薬登録内容

アニキ乳剤

[一般名及び成分含量] レピメクチン 1.0%

[毒性] 人畜毒性：毒物、劇物には該当しない [魚毒性] C類相当

[ブロッコリーに対する適用登録状況（平成 23 年 9 月 26 日 JPP-NET 確認）]

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用 方法	使用 時期	本剤の 使用回数	散布液量 (/10 a)	レピメクチンを含む 農薬の総使用回数
ブロッコリー	コナガ ハスモンヨトウ アオムシ	1,000～ 2,000	散布	収穫 3 日 前まで	3 回以内	100～300 リットル	3 回以内

3 利用上の留意点

- (1) 本剤は新規の殺虫剤である。本剤は抑制神経系に作用し、処理後の害虫は速やかに摂食を停止し、その後死に至る。
- (2) 本剤は蚕に対して影響があるので、桑葉にかからないように注意する。
- (3) 本剤は水産動植物（甲殻類）に強い影響を及ぼすので、河川、湖沼および養殖池に飛散、流入する恐れのある場所では使用しない。
- (4) ミツバチ、マルハナバチに対して影響を与える場合があるので、ミツバチ等の巣箱およびその周辺にかからないようにする。
- (5) 眼に対して刺激性があるので注意する。

4 対象範囲

県下全域

5 具体的データ

(1) 平成 16 年の多発生条件の試験では防除効果が認められ、薬害は認められなかった。

表 1 ブロッコリーのコナガに対するアニキ乳剤の防除効果 (平成 16 年、野菜花き試験場)

供試薬剤	希釈 倍数	処理前			処理 3 日後			処理 7 日後			薬害
		幼虫	蛹	合計	幼虫	蛹	合計	幼虫	蛹	合計	
アニキ乳剤	1,000	6.4	0	6.4	1.7	0	1.7 (7.1)	12.0	0.7	12.7 (31.0)	なし
無処理	-	5.7	0.4	6.1	21.3	1.3	22.6 (100)	38.7	0.3	39.0 (100)	

注) 数値は 10 株当たり個体数。() 内は補正密度指数。

補正密度指数 = (処理区の散布後密度 × 無処理区の散布前密度) / (処理区の散布前密度 × 無処理区の散布後密度) × 100

試験場所: 野菜花き試験場内 (長野市松代)。

耕種概要: 品種「ハイツ」、定植 6 月 30 日。栽植密度: 畝幅 60cm × 株間 35cm。区制・面積: 1 区 6 m²、30 株、3 連制。

処理: 7 月 20 日に動力噴霧器を用いて、10 a 当たり 300 リットルの割合で散布した。

調査: 処理前、3、7 日後に各区 10 株について、幼虫、蛹個体数を調査した。薬害の有無は随時観察した。

(2) 平成 17 年の多発生条件の試験では防除効果が認められ、薬害は認められなかった。

表 2 ブロッコリーのコナガに対するアニキ乳剤の防除効果 (平成 17 年、野菜花き試験場)

供試薬剤	希釈倍 数	処理前			処理 4 日後			処理 7 日後			薬害
		幼虫	蛹	合計	幼虫	蛹	合計	幼虫	蛹	合計	
アニキ乳剤	1,000	23.0	1.3	24.3	5.0	0	5.0 (12.1)	23.3	2.7	26.0 (32.1)	なし
無処理	-	15.0	1.7	16.7	24.7	3.7	28.4 (100)	40.3	15.3	55.6 (100)	

注)、試験場所は表 1 と同じ

耕種概要: 品種「ピクセル」、定植 5 月 20 日。栽植密度: 畝幅 60cm × 株間 40cm。区制・面積: 1 区 7.2 m²、30 株、3 連制。

処理: 6 月 6 日に背負い式動力噴霧器を用いて、10 a 当たり 150 リットルの割合で散布した。

調査: 処理前、処理 4、7 日後に各区 10 株について、幼虫、蛹個体数を調査した。薬害の有無は随時観察した。

6 その他特記事項

[公開] 制限なし。

[課題名、研究期間、予算区分]

野菜・花きの病害虫防除農薬の効果試験、平成 16、17 年度 (2004、2005 年度)、民間受託